

特別史跡

西都原古墳群

発掘調査・保存整備概要報告書（XVI）



2014.3

宮崎県教育委員会

例　　言

1. 本書は文化庁の補助を受け、宮崎県教育委員会が実施した「西都原古墳群活用促進ゾーン整備事業」の平成25年度の事業概要報告書である。
2. 発掘調査は宮崎県教育委員会が事業主体となり、宮崎県立西都原考古博物館が実施した。
3. 発掘調査及び保存整備の実施地點は、下記のとおりである。
 - 西都原4号墳：宮崎県西都市大字三宅字原口二3943番-1（発掘調査のみ）
 - 西都原5号墳：宮崎県西都市大字三宅字原口二3943番-1（発掘調査のみ）
 - 西都原6号墳：宮崎県西都市大字三宅字原口二3943番-1（発掘調査のみ）
 - 西都原10号墳：宮崎県西都市大字三宅字原口二3943番-1（発掘調査のみ）
 - 西都原12号墳：宮崎県西都市大字三宅字原口二3943番-1（発掘調査のみ）
 - 西都原16号墳：宮崎県西都市大字三宅字原口二3943番-1（発掘調査のみ）
 - 西都原201号墳：宮崎県西都市大字三宅字原口二3871番（発掘調査のみ）
4. 西都原古墳群第1支群内の説明施設（保存整備）
5. 本書の執筆は、宮崎県立西都原考古博物館学芸担当主査　泊　俊一郎・藤木　聰が行い、藤木が編集した。文責は、各文末に記している。
6. 発掘調査で出土した遺物は、同博物館にて保管している。

目　　次

第Ⅰ章 発掘調査及び整備の経緯	1
第1節 既往の整備事業	
第2節 西都原古墳群活用促進ゾーン整備事業	
第Ⅱ章 西都原201号墳の発掘調査	3
第Ⅲ章 小円墳群の発掘調査	6
第1節 西都原5・6号墳の発掘調査	
第2節 西都原4・10・12号墳の発掘調査	
第Ⅳ章 西都原16号墳の発掘調査	8
第Ⅴ章 第1支群内における説明施設の整備	9

表紙写真：第1支群の東から南側の様子（手前右の前方後円墳は13号墳）
平成26（2014）年2月24日：有限会社スカイサーベイ九州 撮影

第Ⅰ章 発掘調査及び整備の経緯

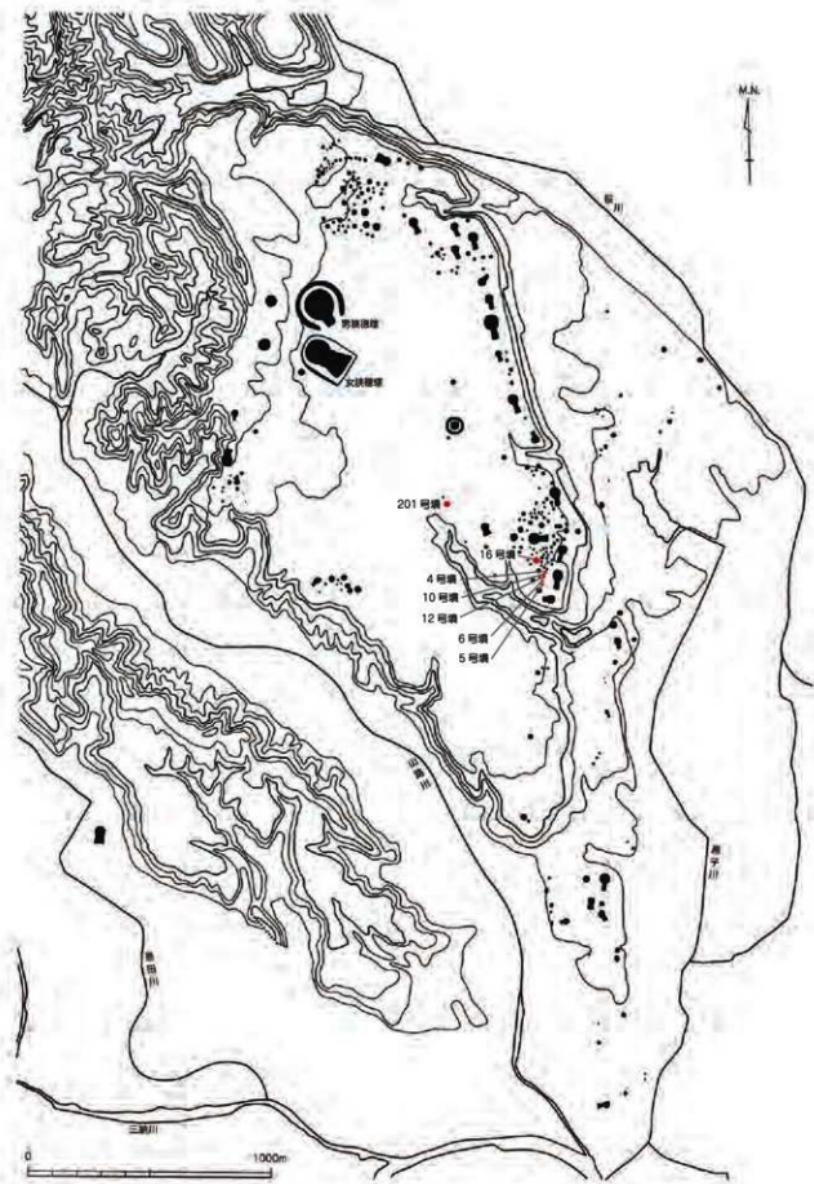
第1節 既往の整備事業

西都原古墳群は、大正元年から同6年にかけて、我が国初の学術発掘調査が実施された後、昭和9年5月1日に国の史跡に、昭和27年3月29日には、特別史跡に指定され、保護継承が図られることとなった。後の追加指定を経て、現在の指定面積は、約58万m²に及んでいる。そして、昭和41年から同43年まで、第1号の『風土記の丘』整備事業が行われ、以後、史跡公園としての環境維持や古墳の保護が図られてきた。その状況を踏まえた上で、宮崎県教育委員会では「史跡の保護」に加えて「活用」という観点から平成5年度・6年度に「西都原古墳群保存整備検討委員会」を設置し、6年度末に『西都原古墳群の保存整備活用に関する基本計画』をまとめ、それに基づき平成7年度より新たな整備事業に着手している。平成7年度から同14年度にかけては文化庁の補助事業である「大規模遺跡総合整備事業」(平成9年度より「地方拠点史跡等総合整備事業」)を活用し、発掘調査の成果を基にした古墳の復元整備工事や環境整備、見学施設の建設、土地公有化などが行われた。その後、平成15年度から19年度には「西都原古墳群歴史ロマン再生空間形成事業」の事業名で、46号墳の発掘調査や111号墳の墳丘復元工事を実施した。さらに平成20年度からは5か年計画で「西都原古墳群活用促進ゾーン整備事業」により、第1支群を中心とする一帯の保護活用を図ることとなった。

第2節 西都原古墳群活用促進ゾーン整備事業

宮崎県教育委員会では、平成19年度に前述の『西都原古墳群の保存整備活用に関する基本計画』を上位計画と位置づけた上で、新たな整備実施計画を策定し、平成20年度より標記事業に着手している。当該事業は、広大な面積を擁する西都原古墳群の中でも各時期の前方後円墳が集中し、大正時代の発掘調査も多く実施されている第1支群を主たる対象と定め、集中的に整備事業を行っていくものである。平成20から同24年度において(平成23年度は東日本大震災等の関係で休止)、46・47・201・202・284号墳の発掘調査、170号墳周辺の整備工事、46・47・202号墳の復元工事を実施したところである。2013(平成25)年度は、前年度より継続調査となる201号墳をはじめ、第1支群内に見られる小円墳群(4, 5, 6, 10, 12号墳)の墳丘形状や周溝の有無、埋葬施設、築造年代を把握するための発掘調査を実施した。また、現在、墳丘上に陥没が生じており、墳丘保護の観点から早急な対応が必要である16号墳について、陥没の原因を探り、今後の墳丘保護に備えることとした。これらの発掘調査に加え、第1支群内の説明施設について、調査成果を反映した新たな施設の設置や、既存の施設を活かしつつ説明内容の更新を行った。

(藤木)



第1図 西都原古墳群全図及び発掘調査・復元整備古墳の位置図

第Ⅱ章 西都原201号墳の発掘調査

201号墳は、西都原台地東南部のグループである第1支群の西端に位置する円墳である。周辺の古墳との位置関係では、201号墳のすぐ北には200号墳、酒元ノ上横穴墓群があり、東南方向におよそ200mに前方後円墳である202号墳が、北方向へおよそ350mの位置に横穴式石室を有する206号墳(鬼の窟古墳)がある。このように、201号墳周辺は、6世紀後半から7世紀にかけての古墳が分布するエリアである(第2図)。2013(平成25)年度の調査では、前年度調査の成果と課題を継承し、まず、墳頂部に見られる性格不明の凹部に対して、昨年度のトレンチを拡張し、石室あるいは木棺墓等の埋葬施設の確認を進めた。周溝については、前年度の調査で地点により深浅が認められたことから、陸橋等の存在も考慮して、全周について表土を除去し、その形状や構造について把握を進めた(第3図)。



第2図 201号墳の位置（南より）



第3図 201号墳の調査状況（北西より）

また、周溝内から外側にかけて、地下式横穴墓等の何らかの構造物が存在する可能性が地中レーダー探査により、指摘されていた。その解明にあたって、同構造物周辺の周溝については底面までの掘り下げを実施した（全周の約1/4に相当、第4図）。周溝の調査等からは、出土遺物による築造年代の絞り込みも期待された。その結果、周溝は、墳丘の全周にはほぼ正円で巡ること、陸橋と見られる地山の削り残しが2ヶ所であること、現状の墳丘は崩落あるいは削り込みが進んでいることがわかった。周溝形状については、外周側が急角度で立ち上ることが、墳丘側が「く」の字状に傾斜変換しつつ緩やかな傾斜であるとわかった。陸橋と見られる地山の削り残しは墳丘の南・東方向で検出され、周溝との接続箇所は1～3段のテラスを設けていた。また、南方向の陸橋では、礫2点が周溝内に倒れ込むようにして検出された（第4図）。



第4図 201号墳における陸橋と地下式横穴墓（南東より）

埋葬施設について、墳頂の凹部においては、予想していた石室裏込めや構築繩の検出はなかったが、墳央付近から墳丘南西側の裾に向かって深く掘り込まれ、場所によってはその底面付近から垂直に近い角度で掘り下げられていた。また、掘り込みは自然埋没しており、墳丘西側の周溝埋土上部にのみ、掘り込みにより排出されたとみられる墳丘盛土と同質の土が検出された。これらの状況から、墳頂の凹部について、盜掘坑であるとみなした。事前の地中レーダー探査で確認された周溝内の構造物については、該当箇所の周溝外壁に河原石3点が検出され(その下部については掘り下げていない)、その手前の周溝床面付近より多くの土師器が出土した。この状況からは、周溝外側に向かって掘り込まれ、河原石で渓門部を閉塞した地下式横穴墓である可能性が極めて高い。

（藤木）

第III章 小円墳群の発掘調査

小円墳群(4, 5, 6, 10, 12号墳)については、耕作等による墳丘の著しい改変のため本来の墳丘規模等を想定し得ないものや、互いに近接することからそれぞれ独立した墳丘であるのか等の不明点を残したものであった。また、これらの小円墳に埋葬施設があるのか、あるならば木棺墓や地下式横穴墓なのか、あるいは両者が共存するのか等も不明であった。これらを明らかにすることは、西都原古墳群の構造や変遷等を把握する上で重要であるため、小円墳群の墳丘形状や周溝の有無、埋葬施設、築造年代を把握するための発掘調査を実施した。また、地中レーダー探査により予想される何らかの構造物の性格解明にも努めた。

(藤木)

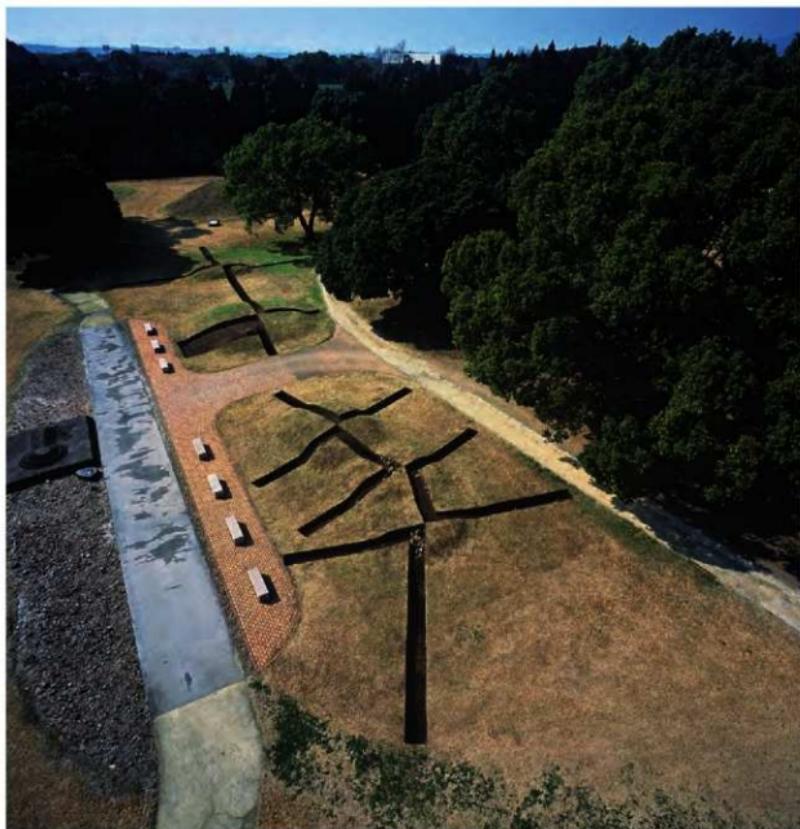
第1節 西都原5・6号墳の発掘調査

5・6号墳ともに、墳丘は、その基盤にアカホヤ火山灰及びその上位の黒色土(クロボク)があり、その上に地山ブロックを含む盛土がなされていた。一方で、墳裾の削平は著しく、5号墳墳裾については、北側を除いて、旧園路の造成や配水管敷設あるいはそれ以前の削平によってほぼ垂直に削り込まれていた。6号墳について、現在、見ることができる正円に近い円墳形状は、削り込みを覆うように大がかりな客土によって盛られたものであったと判明した。特に、北側から西側にかけての削り込みは著しく、一時期はプリン状に墳裾が垂直に近く削り込まれていたようである。客土中からは、

ガラス瓶や現代瓦等が出土し、また、非常に硬く締められていたことから、昭和40年以降の風土記の丘整備の中で墳丘改変がなされたものと考えられた。6号墳に比べ小規模ながら、5号墳でも同様の客土が見られた。6号墳の墳頂では、埋葬施設の可能性がある、盛土に比べてやや明るい暗褐色土の広がりが見られ、その土壤化した表土中より鐵鏃が出土した。5号墳墳頂においては、埋葬施設の検出はなく、墳丘上および周辺のトレンチにおいても古墳時代遺物の出土がなかった。また、5・6号墳とも周溝は検出されなかった。



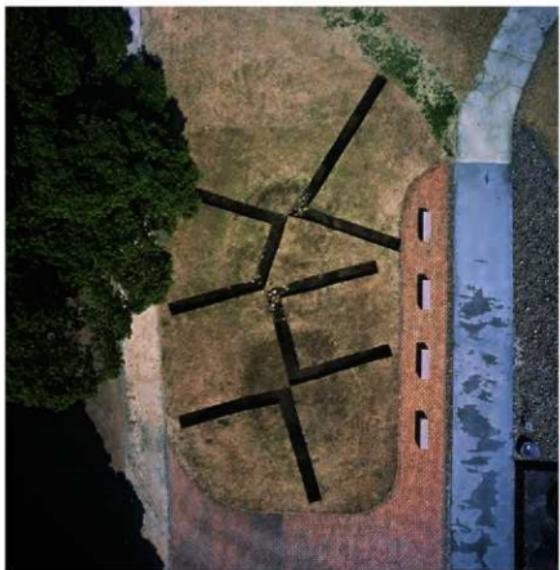
第5図 5・6号墳における調査状況（上が5号墳、写真上が南）



第6図 小円墳群の調査状況（北より）

第2節 西都原4・10・12号墳の発掘調査

4・10・12号墳は、現状で非常に近接しており、墳丘相互の関連把握を進めた。その結果、まず、12号墳については、5・6号墳と同じく、その基盤にアカホヤ火山灰及びその上位の黒色土(クロボク)があり、その上に地山ブロックを含む盛土がみられた。また、南側においては、アカホヤ火山灰直下の黒褐色土(いわゆるクロニガ)に及ぶ浅い削り込みがみられた。墳頂においては、埋葬施設の可能性がある暗褐色土が広がっていた。4・10号墳については、墳頂付近に大ぶりの河原石が平積みされていることが判明した。石積み下部の構造については掘り下げていないため不明ながら、その基盤にアカホヤ火山灰及びその上位の黒色土があり、その上に地山ブロックを含む盛土がなされていた。この盛土は、5・



第7図 4・10・12号墳における調査状況
(上より4号墳・10号墳・12号墳、写真上が北)

6・12号墳のものと比較し、識別の容易なやや明るい灰褐色～暗褐色系のものである。4・12号墳の出土遺物について、古墳時代遺物の出土はなく、石積み周辺や表土中より古代以降の土師器片が出土したのみである。なお、10号墳周辺においても、古代以降の土師器小片を含む土坑あるいは溝が検出されている。両墳の東に隣接する13号墳の周溝内には古代の土塙墓が分布しており(未報告)、北東方向に視認できる35号墳後円部に陶製経筒が埋置されていたことも加味すると(1913年に鳥居龍藏が調査)、4・10号墳は、古代以降の積石を持つ遺構の可能性がある。(藤木)

第IV章 西都原16号墳の発掘調査

16号墳は、下部に空間があることによって生じた陥没があり、墳丘保護や安全管理の観点から早急な対応が必要であった。調査では、下部の空間が地下式横穴墓玄室である場合を想定し、まず、陥没坑への流入土の除去を進めた。その結果、空間は、小林軽石を含む褐色土を床面とすること、側壁はほぼ垂直に、天井はアーチ状に削り込まれていること、天井は墳丘盛土部分にかかること、陥没は盛り土部分で生じたこと、空間の入口に相当する墳裾側のみ重機等により展圧しつつ埋め戻されていることが判明し、床面や入口を埋め戻した土中より現代のガラス瓶・花瓶・ビニール袋・布・鉄板等が出土した。空間構造や入口付近の造作から、地下式横穴墓を再利用したものである可能性は極めて低く、墳丘を利用した半地下空間(倉庫等)であった可能性が高く、最終的に風土記の丘整備の際に埋められると推定される。今回の調査では、墳丘再利用の一端を知ることになったと同時に、半地下空間の壁面観察から、墳丘構築前の旧地表と現地表の関係や盛土の在り方等を把握できた点は、今後の整備を進める上で重要な情報収集となった。(泊)



第8図 16号墳における陥没坑の調査状況（南より）

第V章 第1支群内における説明施設の整備

これまで第1支群で進めてきた整備事業を総括し、さらなる第1支群の活用促進を図るため、説明施設の新設、あるいは説明内容の更新を行った。

破損や老朽化が進んでいる説明施設については、板面の記載内容の見直しを進めつつ、セラミック板に鋼製メッキの架台へ取り替えた。また、御影石架台にセラミック板を貼り付けた説明施設については、最新情報へ更新した板面を製作し、貼り替えた。
(藤木)

報告書抄録

ふりがな 書名 副書名 シリーズ名 シリーズ番号 編著者名 発行機関 所在地 発行年月日	とくべつしせき さいとばるこふんぐん はつくちょうさ・ほぞんせいびかいようほうこくしょ 特別史跡 西都原古墳群 発掘調査・保存整備概要報告書 III 泊俊一郎・藤木聰(下線が編集者) 宮崎県教育委員会(編集:宮崎県立西都原考古博物館) 〒880-0805 宮崎県宮崎市橋通東1丁目9番10号(〒881-0005 宮崎県西都市大字三宅西都原西5670) 2014年3月31日					
ふりがな 所収遺跡 所在地	ふりがな 市町村 遺跡番号	コード 北緯 東経	調査期間	調査面積	調査原因	
おとばる201ごう ふん 西都原1号墳	みやざきけんさいとおわあざみ やけあはらうぢに 宮崎県西都市大字三 宅字原口二3871番	45208	32°11'44" 付近	131°38'99" 付近	20131101～ 20140331	620m ² 史跡整備関連
おとばる4・5・ 6・10・12ごう ふん 西都原4・5・ 6・10・12号 墳	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
	縄文	散甕	石器	須恵器・土師器		
おとばる4・5・ 6・10・12ごう ふん 西都原4・5・ 6・10・12号 墳	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
	古墳	円墳(5・6・12号墳)	鐵鏟(6号墳)	須恵器・土師器		
おとばる16ごう ふん 西都原16号 墳	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
	古墳	古代以降	積石を持つ遺構(4-10号墳)	土師器		
要約	ふりがな 宮崎県西都市大字三 宅字原口二3943番-1	45208	32°11'16" 付近	131°39'40" 付近	20131101～ 20140331	134m ² 史跡整備関連
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
おとばる16ごう ふん 西都原16号 墳	古墳	近代以降	半地下施設	須恵器・ガラス瓶他		
	西都原201号墳は円墳であり、陸橋2か所、周溝から外方へ掘り込まれた地下式横穴墓1基が検出された。 西都原5・6・12号墳は古墳であり、6・12号墳の墳頂に埋葬施設が検出された。 西都原4・10号墳は古代以降の積石を持つ遺構である可能性が示された。 西都原16号墳の陥没坑について、地下式横穴墓等ではなく、近代以降の半地下施設に起因すると判明した。					

特別史跡 西都原古墳群 発掘調査・保存整備概要報告書(III)

2014年3月31日

発行 宮崎県教育委員会(宮崎県立西都原考古博物館)
〒880-0805 宮崎県宮崎市橋通東1丁目9番10号
(〒881-0005 宮崎県西都市大字三宅西都原西5670)

印刷 藤屋印刷株式会社
〒883-0045 宮崎県日向市本町7-15
TEL 0982(52)7171 FAX 0982(56)1208